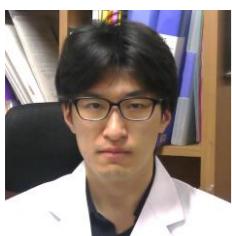


## お知らせコーナー

当院に1月着任した医師を紹介します。

### 外科

野尻 基



出身地 岐阜県  
趣味 マリンスポーツ  
抱負 外科医として地域医療に貢献したいと思います。宜しくお願ひします。



### 消化器内科

石川 英樹



出身地 愛知県  
趣味 音楽鑑賞  
抱負 この地域での消化器疾患の救急医療に対して、常に質の高い医療を目指し、提供することを目標として、地域に愛される病院となるよう努力して行きたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願ひ申しあげます。

### 公立西知多総合病院

#### シャトルバスのご案内

平成29年4月3日(月)から、新舞子駅(朝倉駅経由)便を新設いたします。また、各停留所の運行ダイヤも変更します。是非ご利用ください。



**運行ダイヤ**

朝倉駅	↔	公立西知多総合病院	(所要時間: 片道10分)
新舞子駅(朝倉駅経由)	↔	公立西知多総合病院	(所要時間: 片道25分)

公立西知多総合病院 行		公立西知多総合病院 発	
朝倉駅 発	新舞子駅 発	朝倉駅 行	新舞子駅(朝倉駅経由) 行
7時	40 55	40	
8時	10 40 55	40	00 30 15
9時	10 40 55	40	00 30 15
10時	10 40 55	40	00 30 15
11時	10 40 55	40	00 30 15
12時	10 40 55	40	00 30 15
13時	55	40	15
14時	10 40		00 30
15時	10 40 55	40	00 30 15
16時	10 40	40	00 30 15

※ 55分発は新舞子駅発

※ 全便朝倉駅経由



### 今後の糖尿病教室のご案内

場所：公立西知多総合病院 2階講堂  
ご自由にご参加ください！！（予約は不要、参加費は無料です。）

開催日時	内 容	今月のレシピ
5月9日(火) 14時～15時30分	1. 知っていますか自分の薬？～薬の効き方と注意点～ 2. ためしてみよう！～インスリン以外の糖尿病注射薬～ 3. 今月の運動～背中の運動～	麺料理
6月6日(火) 14時～15時30分	グループセッション①～糖尿病について語ろう～	野菜料理
7月4日(火) 14時～15時30分	1. 体験談①～患者さんから学ぼう～ 2. 運動の効果～運動のききめを知っていますか～	豆腐料理



公立西知多総合病院だより 第9号

2017年4.5月発行 編集：広報図書委員会 発行：公立西知多総合病院

# 公立西知多総合病院だより

2017年  
4.5月号  
vol. 9

新年度あいさつ

院長 浅野 昌彦

褥瘡（床ずれ）に対する当院の取り組み

皮膚科部長 山北高志

部署紹介～臨床栄養科～

～PSC（患者サポートセンター）～

DST（認知症サポートチーム）が活動しています

認知症ケア専従看護師 都丸 真以

イベント紹介

お知らせコーナー



平成29年度新入職員

# 院長新年度あいさつ ～開院3年目を迎えるにあたり～



院長 浅野 昌彦

新緑の鮮やかな5月になると、公立西知多総合病院は開院3年目に入ります。

地域の皆さまが安心して暮らせるために、24時間体制で急性期医療を提供していく総合病院として立ち上がり、「質の高い医療の提供」、「断らない救急医療」、「地域医療機関との連携強化」を3つの柱として、この2年間頑張ってきました。平成28年1年間の延べ入院患者数は107,000人を超えて、救急患者数は約23,500人、救急車搬送件数は約5,000件、地域医療機関からの患者紹介率50%以上、逆紹介率70%以上となりました。地域医療を支えるために、常勤医師72名、常勤看護師398名を含む677名の職員が一丸となり、弛まぬ努力を行った成果であります。

日本では少子高齢化が進み、当院においても、入院患者さんのうち約7割が65歳以上であり、75歳以上の高齢者が占める割合は約5割です。高齢になると、身体機能の低下や心血管疾患・呼吸器疾患・糖尿病などの併存症を有することが多いため、治療には細心の注意を払わねばなりません。

また、入院においては、転倒・転落の防止や院内感染の防止など医療安全・感染対策に十分な対応が必要です。当院では、身体機能に合わせて検査や手術法を選択し、きめの細かい治療に心がけており、患者さんに無理のない医療を提供しています。院内には、医療安全管理室と感染対策室を独自に設置し、安全に入院生活が送れるように、常時、病院全体を管理運営しています。高齢者に優しい、安心・安全な医療を提供する病院であるよう努力しています。

今年秋に、日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審する予定です。これは、病院が患者本位の医療を適切に安全に提供しているかどうかを、外部の評価機構に調査してもらうものです。現在、患者さんへの対応や医療安全・感染対策を基本とした診療・運営のあり方を各部門で見直し、改善を図っています。病院機能評価に合格し、「質の高い医療を提供している病院」と認証していただけるよう職員全員で取り組んでいます。

今年度も、地域の皆さんに信頼され、心のこもった医療を提供する総合病院として頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いします。

## 褥瘡（床ずれ）に対する 当院の取り組み

褥瘡とは、寝たきりなどによって体重で圧迫されている場所の血流が悪くなったり滞ることで、皮膚の一部が赤い色味を帯びたり、ただれたり、傷ができてしまうことです。一般的に「床ずれ」とも言われています。



皮膚科部長 山北高志

出身地 岐阜

趣味 カメラ(Canon EOS

5DsRを愛用しています)

### 当院における褥瘡対策の取り組み

当院では入院となったすべての患者さんに対して、病棟看護師が褥瘡管理計画書を作成しています。その計画書を参考にして褥瘡を有する患者さんに対して、毎週木曜日の午後に褥瘡対策チームによる褥瘡回診を全病棟で行っています。

褥瘡対策チームは皮膚科医師2名、看護師4名(3名は皮膚・排泄ケア認定看護師)、管理栄養士1名、薬剤師1名で構成されています(図2)。まず、皮膚科医が診察を行い、重症度の評価と治療方針を決定します。重症な褥瘡に対しては外科的処置を行います。それに基づいて、褥瘡対策チームの看護師が病棟看護師に対してポジショニングやスキンケアについて指導を行います。栄養状態に問題がある場合には管理栄養士に食事内容の変更をお願いし、場合によってはNST(栄養サポートチーム)との連携を行っています。薬剤師は褥瘡治療に用いられる塗り薬や材料の管理を行っています。

また、月に1回各病棟の褥瘡対策委員である看護師が集まって、カンファレンスを行っています。カンファレンスでは褥瘡対策チームが褥瘡回診でよく遭遇する問題点を病棟看護師に伝達したり、病棟看護師から褥瘡対策チームに対して管理について質問を受けたり、新しい治療法についての勉強会を行っています。

### 褥瘡はなぜできるのでしょうか？

皮膚は血液から酸素と栄養の供給を受けています。皮膚の毛細血管圧(約30mmHg)以上の圧力が持続的に加わると、皮膚への血流が途絶えて酸素と栄養の供給がなくなってしまい、皮膚が死んでしまいます。これが、褥瘡が発症する直接のメカニズムです。

私たちは寝ている間も無意識のうちに寝返りをうつたり、長時間椅子に座っているときはお尻を浮かせるなどして、同じ部位に長い時間の圧迫が加わらないようにしています。このような動きを「体位変換」といいます。さまざまな要因で体位変換をできない方に長時間圧迫が加わることにより、褥瘡が発生します。

また、寝たきり状態はよくないからとベッドを起こすと、お尻で体重の大部分を受け止めることになり、寝ている状態よりもお尻に大きな圧力がかかります。そればかりか体がずり落ちるために、背中や腰の皮膚に摩擦やズレを生じてしまい、褥瘡が発生する危険性が高くなってしまいます。起こす時は、体がずり落ちないように、まず膝を曲げて固定してから上体を30度まで上げます。30度以上に上げる必要がある場合は、特にお尻の皮膚の状態に注意しながら、長時間同じ姿勢にならないように気をつけましょう。

### 褥瘡のできやすい部位はどこでしょうか？

骨が突出している部分は圧迫が強くかかるので、褥瘡ができやすくなります。仰向けに寝ている場合に褥瘡ができるやすい部位を図1に示します。

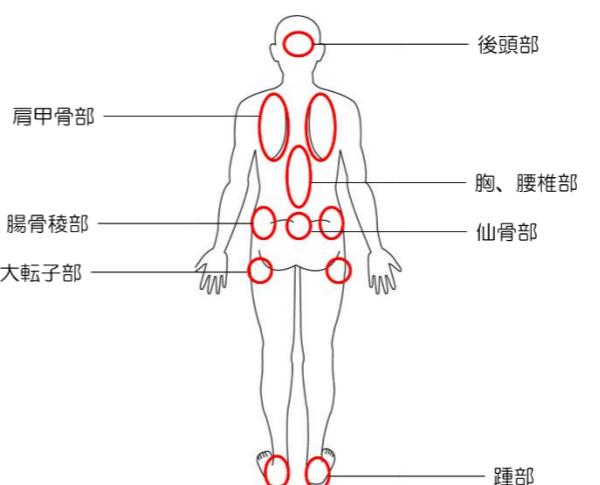


図1 褥瘡の発生しやすい部位



図2 褥瘡対策チーム(筆者撮影)

褥瘡は塗り薬や外科的治療のみならず、体位変換や栄養管理など集学的な治療が必要な病気です。当院では多職種によるチーム医療で治療を行っています。入院時、入院中、また退院後の褥瘡の管理について不安なことがありましたら指導を行っておりますので、気軽にご相談ください。

# 部署紹介 臨床栄養科

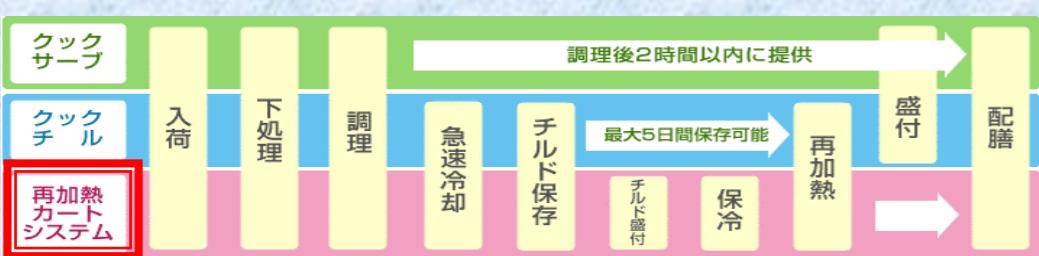
## ～安全な食事提供と栄養サポートを目指して～

臨床栄養科 管理栄養士 早川 芳枝

臨床栄養科では科長の神野医師のもと、管理栄養士5名が次のような業務を行っています。



まず、**食事**は日々の入院生活の中で楽しみのひとつですが、治療としての役割も担っています。そのため食事療法が治療に欠かせない患者さんに対して、その内容は個々の病状に応じた対応が必要となります。病態に合わせた食事内容は50種類以上にものぼり、さらにアレルギーや個々の嗜好にも対応する必要があります。美味しくかつ栄養的配慮がなされ、衛生的にも安全な食事を継続的に提供できるように、委託職員と協力体制をとり業務に当たっています。



業務用厨房機器総合メーカーAIHO ホームページより



ニュークックチルシステムで調理した食事

食事の提供方法ですが、当院では**ニュークックチルシステム**（再加熱カート）を採用しています。

これは簡単にいって、調理（クック）して冷蔵する（チル）システムです。調理後の食品は常にチルド（0～3°C）保存され、その間に食材の中まで味が入り込み、薄味でもおいしい料理となります。そして、提供直前に加熱することで、温かい食事を食べていただけるのです。またチルド保存により細菌の増殖しやすい温度（約20～50°C）を少なくして、安全な食事を提供することができます。

さらに当院では、入院患者さんの身体状況や病態に応じ、多職種でチームを編成し栄養サポートを行っています。チーム医療のNST（栄養サポートチーム）では、管理栄養士が他の医療スタッフと連携し、入院患者さんの栄養状態の評価を実施し週3回のカンファレンス・回診を行っています。入院中の栄養状態の維持・改善を図ることで、治療効果の向上が期待できます。

最後は食事療法の必要な患者さんに、医師の指示により栄養指導を行っています。食事療法というと「あれもだめ、これもだめ」と言われると思われるがちですが、普段の食生活をうかがいながら患者さん一人一人に合わせたアドバイスを行い、病状改善、回復にむけた食生活の継続をサポートしています。

また糖尿病教育入院や糖尿病教室で教育スタッフの一員として、糖尿病治療における食事療法の重要性について講義を担当しています。糖尿病教室では当院通院患者さんだけでなく、地域での啓発活動も行っていますので、お気軽にご参加ください。栄養指導をご希望される方は、当院通院中の方は主治医に、通院されていない方は、かかりつけの先生にご相談ください。なお病院ホームページには、ヘルシーレシピを公開していますのでチェックしてみてください。

公立西知多総合病院 ヘルシーレシピ

検索

# PSC(患者サポートセンター)を紹介します

PSCは、患者さんがその人らしく安心して地域で生活できるように、院内の多職種が患者さんを取り巻く「チーム」として協働し、地域の関連機関と連携する窓口です。患者さんやご家族の相談窓口である4つの部門で構成されています。

## 【総合サポート室】

専任の看護師や社会福祉士の国家資格を持った医療社会福祉士が、病気や療養生活に関する疑問や不安、悩みなどの相談を受け付けています。また、地域医療機関と連携し、地域完結型の医療を提供するために、患者さんにかかりつけ医を持っていただく事を推奨する「かかりつけ医相談」の実施と、総合案内での診療科相談・受診案内などを実施しています。

## 【患者支援室】

入院前から入院・退院について患者さんと家族が、病気や病態を理解していくいただき、自分らしい生活がすごせるよう、切れ目のない医療を提供できるよう目指しています。

事前に予約がわかっている患者さんについては、情報収集を行い、日常生活動作の低下が予測される時には、パンフレットや多職種で構成されるスタッフからわかりやすい指導を行います。退院支援では、患者さんや家族と退院後の生活イメージを共有した上で支援を行い、生活様式の再編が必要な場合は、医療社会福祉士とともに細かい調整を行っていきます。

## 【地域医療連携室】

地域の医療機関同士で役割を分担し、地域全体で医療を支える地域完結型医療が求められる中、当院は急性期医療の中核病院及び在宅療養後方支援病院として、患者さんの状態に応じて最適な場所で医療を提供できるよう、地域の医療機関と緊密な連携を図り、外来受診や検査などの各種予約受付、緊急患者さんの受診調整、在宅療養中の患者さんやその担当医の支援、逆紹介の推進、高次医療機関等他院への受診調整、返書管理などを行っています。

平成29年2月から半田市立半田病院及び常滑市民病院と協力し、患者さんの同意のもとに地域の医療機関に診療情報を開示する知多半島医療連携ネットワークを運用し、よりスムースな情報共有の効率化を進めています。

## 【チーム医療推進室】

摂食・嚥下障害看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、緩和ケア認定看護師、認知症看護認定看護師、栄養サポートチーム専従看護師が所属しています。入院時、または入院前から専門分野の視点で患者さんをアセスメントし、早期に生活の場に返すための多職種によるチーム介入へつなぐことを心がけ、患者さんが気軽に相談が出来るように、看護相談室を設けています。入院中のサポートから退院後の訪問看護師との同行訪問など、専門知識を活かしたチーム活動を展開しています。

# ●○●DST（認知症サポートチーム）が活動しています●○●

認知症ケア専従看護師 認知症看護認定看護師 都丸 真以

## ●○●認知症者の増加●○●

日本は、急速な勢いで高齢化社会が進んでいます。2025年には、認知症を患っている方は約700万人を超えると予想されています。

また、65歳以上の5人に1人が認知症者ということになり、病院以外の日常生活でも認知症者と関わるといったことが増えています。

このような日本の社会背景に伴って認知症や認知機能低下のある入院患者も増えています。「どのように関わったらよいか、

「どうしてこのような行動を取ってしまうのか」と、毎日その対応に苦慮し、対応に追われているのが現状です。



## ●○●認知症ケア加算とは●○●

平成28年度診療報酬改定において「認知症ケア加算1、2」が新設されました。これは、病院における認知症患者の適切な医療の評価と認知症ケアの質の向上を目的としています。

また、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上の方が該当になります。認知症と診断されていなくても、ランクⅢ以上の方は対象患者となります。

※認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のⅢ以上とは・・・

「日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする方」を指します。

## ●○●DSTの内容●○●

週2回月曜日と木曜日に、多職種（医師、認知症看護認定看護師、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、看護師、社会福祉士、薬剤師、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士）でDSTカンファレンスを行っています。



- ・認知症と診断を受けている方、認知機能低下がある方
- ・入院してから「あれっ？」と思う行動や言動が増えた
- ・睡眠薬や抗精神病薬など薬をたくさん飲んでいる
- ・入院して治療を始めてから無気力になった
- ・心理・行動症状がある方
- ・今現在、興奮しているけど、どうしよう？
- ・認知症の方の関わり方が分からぬ

など病棟看護師からの相談を受け、活動しています。。

## ●○●DST（認知症サポートチーム）について●○●

平成28年6月からDST（認知症サポートチーム）を立ち上げ活動を行っています。

DSTでは、認知症の方々が、不安や混乱を起こさず適切な医療と支援が受け得るように調整をします。また、認知症者の支援を病棟スタッフとDSTメンバーの多職種で共に考え「認知症者のその人らしさを尊重し、ありのままを受け入れ支援させて頂く」事を目指しています。

# イベント紹介

～公立西知多総合病院で実施したイベントを紹介します～

3月2日（水）

## ひなまつりコンサート



エントランスホールにて、入院患者さんやご家族の皆さんとふれあいながらひなまつりコンサートを開催いたしました。

コンサートでは、「歌って健康シルバーライフ」の方が、「うれしいひなまつり」「春の小川」「春よこい」等季節の歌を、すてきなハーモニーで合唱し、入院患者さんやご家族の皆さんと一緒に楽しいひとときを過ごしました。



2月18日（土）  
ICLS講習会



看護師、薬剤師及び救急救命士等がICLS講習会に参加し、心室細動、心停止等の初期治療を習得することを目的に、実技実習を中心に蘇生トレーニングを行いました。

トレーニングでは、胸骨圧迫による心肺蘇生、除細動器の使用方法やAEDを用いた蘇生等について学びました。

※ICLSとは日本救急医学会による医療従事者のための突然の心停止等に対応する蘇生トレーニングです。



## 2月11日（土） 災害対応訓練を行いました

大規模地震が発生、多数の被災者が来院すると想定した災害対応訓練を行いました。訓練では、午前中に災害対策本部・災害対応診療エリア等を立ち上げ、午後から2回に分けて患者受入れ訓練を行い、症状に応じたトリアージ等の実施を行いました。

災害対応訓練の様子



心肺蘇生等の  
講習を行いました